

山崎郷土叢

No. 52
53.11.8
兵庫県赤粟郡
山崎町教育委員会内
山崎郷土研究会
電話②2000

近世初頭の山崎藩(十三)

島田清

二、池田輝澄時代 (続十二)

備前藩内に起こった渡辺鞆負殺害事件が、これほど天下の耳目をそばだたせる問題に発展しようとは、当初、誰が想像したであろう。また、家康の外孫、池田忠雄が、臨終にあたって、

“たとえ、備前一国を召し上げられようとも、必ず河合又五郎の首を墓前に供えよ。”

と遺言するほどの激しい事態になろうとも、誰が想像したであろうか。大名対旗本の対立が急速にけわしくなりつつあったときではあったものの、戦国の余風も、また、濃厚にのこっていたのである。

忠雄の後嗣、勝五郎は、このとき、三歳であった。

目次

近世初頭の山崎藩(十三)	島田清	一
落首小話	堀口春夫	六
雨乞ひの靈宝「酢答」	下村憲一	七
(ヘイサラバサラ)		
郷土研究に若さを!!	安井清介	八
明治の白洲―山崎―	織金義雄	九
山崎昭和年譜	堀口春夫	十一
史跡部だより		十三
近況だより		十四

事態がどう転廻するか、関係者はもちろん、他の大名も、旗本も、大きな関心をもって見守っていた。それを、弟の輝澄が、台閣にせまってみごと解決したのである。“さすが”という賞讃も当然であろう。『存採叢書』にも、

“其頃、世、拳テ輝澄手柄ノ器量ヲ美歎ス。”

と書かれている。

輝澄は、又五郎の父、河合又衛門に対して、

“又五郎を仕留めた上は、又右衛門に意趣なし。”

と追放しようとした。これに対し、

“ここまで世間を騒がせた曲者^{くせもの}を野放しにすることは危険だ”

として身柄をあずかり、こっそり消し去ったのは池田忠雄の外舅蜂須賀蓬庵であった。やはり、戦国生き残りの達人と云ってよからう。「徳川実紀」では、この蓬庵を大きく取りあげ、事件全般を取り廻したように記している。(国史大系本『徳川実紀』第二卷六六三―四頁)

〔渡辺数馬・荒木又右衛門伊賀越復讐〕

○七日(寛永十一年十一月七日)

さきに、松平宮内少輔忠雄が家士、渡辺某を討って立のきし河合又五郎を、その兄数馬並近縁荒木又右衛門、年ごろ復讐の志有て、ここかしこ搜索せしが、けふ、藤堂大学頭高次が所領、伊賀の城下にて行あひ、又五郎並にその伯父河合勘右衛門及桜井半兵衛を悉く討はたせしよし聞ゆ。数馬、又右衛門は、忠雄が子、庄五郎より人数を出して迎えしめ、因州に引とりしぞ。(こは、又五郎、渡辺を討て江戸へ逃来りしを、旗下の士、阿部四郎五郎正之、久世三四郎広当、安藤次右衛門正珍かくし置ていさず。忠雄大に憤り、又五郎が父半左衛門を召とり、刑に行はんとす。よりにて、阿部・久世・安藤等、又五郎をかへすべければ半左衛門を助命し賜はれと申こふ。忠雄、さもあらんには、半左衛門をゆ

るすべし、とて、三人のかたへ半左衛門ををくりて、又五郎をば請取らん、といひやる。しかるを、久世等、半左衛門をば受取りて又五郎をば返さず。よって、忠雄益々いかり、大病にのぞみ、我備前一国を召し上らるとも、此事、上裁を講べし、と申置て卒しぬ。久世等は、

いか様の事にも、一旦、旗下の士を頼み来りしものをかへして、首はねさす事、かなふべからず、とて、これに党与する少年共数多く、すでに大事にも及ばんとせしかば、忠雄が岳父、蜂須賀蓬庵に、このことあつこうべし、と命ぜらる。蓬庵、さしも老練の古つはものなれば、よく処置して、半左衛門は備前へも返さず、久世等がもとにもとどむべからず、我あづかるべし、とて請取、阿波に送るとて、大阪の舟にて密に刺殺し、頓死のよしを披露す。久世等へは、又五郎をも隠すべきにあらずと、厳しく命ぜられしかば、又五郎に多くの人を付て、しるべのかたへをくりやりしを、荒木、渡辺、めぐりあ

時計・めがね・宝石

津村時計店

中央通り・☎②0355

ひてうちとめしなり。久世・安藤・安倍等は、此事によりて御咎ありて、しばらく、谷中辺の寺に蟄居しけるが、月日経てやうやく御ゆるしありしとぞ。(「江城年録」)

これによって、事件の深刻さと複雑さが、いっそうはつきりしたであろう。すなわち、大名対旗本の確執はこのごろ急上昇して爆発寸前になっていた。旗本の暴れん坊からみると、將軍外孫という名門の大名は、それだけやりがいがあるというものが、理罪の判断は二の次として、これに一泡吹かせることが最大の目標であった。だから正当な忠雄の申入れに対しても、まともに受入れない。怒り心頭に発した忠雄は、運悪くわずらった痘疹のために一命を落してしまう。天下の政治をあずかる幕府の台閣が理非曲直を明らかにし、旗本を押しさえれば問題はなすが、若手の元氣者に引きずられて氣勢をあげる旗本衆を一片の命令書で押しえつけない。当時の老中は、酒井忠世・内藤忠重・土井利勝・青山幸成・青山忠俊・稻葉正勝・松平信綱・永井尚政・酒井忠勝・酒井忠行など、錚々たる人材が揃っていたけれども、これを一挙におさめる手腕家はいなかった。(もつとも、これは不可能であったかも知れない。)それだけに、逡巡があり、停滞が続いた。しかも、一方では、原告である池田忠雄が死んでいる。ひじょうにずるい考えかただが、

このまま抛っておくと、時間の経過とともに双方の意気込が当初ほどでなくなり、しだいにうすれていったあげぐ、うやむやに終るかも知れない、という考えかたもできる。有能な人材のそろった老中が、積極的な処置を講じないのは、めいめいの心底にそうしたもの動いていたのではないか。もしも、そうだとすれば、これは一刻も早く打破しなければならぬ。方法は、まず、時間の空費を省くことで、そのためには、積極的な処置要求を迫ることが第一である。しかし、これには、大勇がいる。忠雄が考えたごとく、たとえ、一身はどうなろうと、正しい要求を突きとおさずにはおかぬ、という強い覚悟が必要だ。輝澄が、一大勇猛心をもって老中の邸におもむき、明確な答弁を得るまでは退出しない、と頑張ったのはこのためで、これが、結局は、突破口となり、原動力となったわけである。老練な老中たちもこれには窮したらしい。一門・譜第も成り行きを心配し、遂に御三家筆頭の尾張

新才会ピアノ教室

山崎町庄能119の11
電話 ② 3686

書道用品・結納用品

志水成文堂

山崎町さつき通り1丁目
☎ ② 0547・4305

義直が中に入り、隠便な事態収拾策をたてたのであった。このための方法は二つ。ひとつは、河合又五郎を旗本が匿うということをやめさせること、今ひとつは、その父又右衛門を手放さすことである。前者については、旗本衆に対する説得が必要となる。これについて、『旗本と町奴』（文化叢書第五編、柏原昌三著、大正十一年三月五日刊）に、

“幕府からは、又、三人の旗下に、又五郎を隠^{かく}ま^まっては、旗下法度に、「本主の障り有るものは抱へてはならぬ。叛逆・殺害・盗賊をして遁げたものだと、本主から届が有ったら、直ちに其のものを本主に返せ。其の外、軽ろき咎のものは、侍ならば本主よりの届次第、之を追払へ。小者・中間ならばこれを本主に返せ。夫に就いて面倒なことが起こったならば、番頭・組頭に於いて相談して、之を処分せよ。事いよいよむづかしくなると、番頭・組頭の相談でもきまらなくなったら、老中に申出て、之が差図を受けよ。と有るに抵触するか、直ちに又五郎を池田家に引渡せ。どう有っても命令を聴かぬならば、御代々の重き掟を犯すもの。急度申付る、と厳命したので、三人の旗下も、遂に又五郎を放った。そこで、渡辺数馬に助太刀

荒木又右衛門が、寛永十一年十一月七日、之を伊賀国上野城下で討取ることになったのである。”

(三四―五頁)

徳川家光が頒布した「武家諸法度」は寛永十二年六月二十一日（一六三五）で、「旗下諸法度」はそれより半年おそい寛永十二年十二月十二日である。したがって、右に述べられた「旗下諸法度」は秀忠のときのものであるが、内容的には、秀忠のものと、家光のものとの間に大きな懸隔はない。旗本三人衆も、結局は、法度の規定にしたがって説諭され、それに服したのである。家光が、この事件の片づいた翌年に武家諸法度、旗下諸法度を改めて出したのは、こうした事件の再発を厳重に防止しようと考えたためであろう。

事件の主要

な問題は、これ、ほぼ片づいたといっている。一時は、どうなることかと多くの人びとが危惧した大問題

食料品一切卸問屋

③ 寺田商店

山崎町紺屋町・☎②0005

和洋酒・食料品

城内商店

山崎町東鹿沢・☎②0369



にまでエスカレートさせた旗本三人衆は、いったい、どのような経歴の持ち主であるか、これまで、あまり述べたものをみない。ついでのことであるから、次に記しておこう。

江戸時代の諸大名ならびに旗本の家系を書き集めることは、早く、寛永時代（一六二四～四四）におこなわれた。「寛永系図」と呼ばれるのがそのときの成果である。しかし、その後、取潰しに逢ったり、新しく取り立てられたりするものが毎年できた。「恩栄録」ならびに『廃絶録』と呼ぶ書物はこれを書き留めたものであるが、さらに、寛政年代（一七八九～一八〇一）に至り、諸大名・旗本の諸家から家譜を提出させ、これを集大成することがおこなわれた。「寛政重修諸家譜」がそれである。この事件に係る旗本三人衆も、もちろん、この中に

出ている。（この書は、「東照宮三百年祭」の記念事業として大正六年に出版された。B5版、全八巻の大冊で各巻一〇〇〇頁前後。記事は詳細をきわめている。）
 まず、同書第三輯（大正六年九月三十日発行）を開くと、久世家と坂部家とが載っている。そのうち、久世家は、村上天皇の第七皇

子、具平親王の出である。親王の子師房が臣籍に降下し、寛元四年（一二四六）十二月二十六日、源朝臣の姓をもった。このため、この家を村上源氏という。

この後、顕房・雅実・雅定・雅通・通親と相続し、通親の子通光のとき、久我と号した。後年、播州の名族となり、武名を挙げる赤松氏は、右に掲げた雅通の弟、定房から分れ、定忠・師季を経て秀房となったとき、播磨に配流されて武士となるのである。

久我家は、通光のあと、通忠・通基と続き、その二男通雄が中院と号し、さらに、その二男通相が千種と号し、その長男具通は久世と号して、しだいに分れていった。そして、具通の子通宜、孫清通を経て通博となったとき、東久世と号した。久世三四郎広高の祖は、この通博の子某（左太夫）である。「寛政重修諸家譜」をひもとくと、この家を「村上源氏、久我庶流」として巻第四百六十に載せている。以下、この家のことを拾ってみよう。

左太夫は、幼少のときより將軍足利義政の弟、政知と親しかった。政知が堀越公方となって関東へ下るとき付き添い、のちに三河国に移った、という。

左太夫の子、広通は平七郎と称し、孫広長は平太夫と称した。広長は徳川清康および広忠に仕え、戦功を立てたが、天文一五年（一五四六）に死んだ。江戸時代の初頭、家康に仕えて、久世家を興したのは、広長の子広宜

美術・工芸・画材
いとう画廊

山崎町出水町通り
☎ ② 0371

人で斥候をつとめた。

慶長五年（一六〇〇）関ヶ原合戦が起こると、松平忠政の軍に従い、二人とも後備の役を命ぜられ、同一九年の大阪役にも従軍した。翌元和元年の役では本多正貫を加えた三人、將軍秀忠の本営にあって、藤堂高虎・井伊直孝などの先手（さき）に敵命を伝え、また、馳せ帰ってその状況を報告した。

落首小話

堀 口 春 夫

昔は人名をもじって人を諷刺批判した落首がよく行はれた。面と向って権力を批判出来ない当時の庶民は落首

である。

広宜は、初名三四郎、のち三左衛門と称した。天正四年（一五七六）一六歳のとき、大須賀康高に配属され、先手組となった。これより、各地の戦に参加したが、坂部三十郎広勝とは天正八年の高天神城攻め以来、同輩となり、同一八年の小田原征伐に際しては、二

によって遠廻しに鬱憤を晴らすのがせいぜいであった。

落首は匿名でユーモア味を持った逃道があったので厳しい詮議の追及は少なかった。宝暦の昔、本田家の宿老内藤兵馬の屋敷の長い塀と塀の間に菱塗壁の土蔵があった。家老が退職した後の土蔵に或る朝落首の貼紙があった。

「本田は痩せても家老田は肥える、無内藤いは言はせぬ兵馬」
馬間のおくら、武士はやめても貯め金暮し、豪商と駈落後生安楽」内藤兵馬は藩の粛清で永の暇になった武士である。其後又、困窮せる藩の財政建直しの為家老の佐藤善五右エ門景長（初名織之助）は、炭座を統制して、炭やたどんの藩専売を試みた事があった。出石のお蔵で炭焼人足を動員してたどんの製造をし、高瀬舟で大阪に送って売り捌く算段であったが、大阪では丹波炭や伊予炭の向うを張って競争する程受けられず穴栗炭は買いたたかれてあまり儲けにはならなかった。或朝炭船の舟板に炭で落首があった。「黒佐藤焼いて粉にしてたどんにまるめ高瀬に乗せて織下り之助、善五もわからぬ商ひを、難波（大阪）でたたかれ藩船も儲からぬとは、お景も長くは続くまい」此の落首が善五右エ門景長の目に入ったかどうかは知れないが、茶道衆が町の茶会で問屋衆から聞いた話である。やはり藩の炭専売は炭問屋の反目もあって長くは続かなかつたらしい。又、弘化元年、江戸執政の片桐藏治は、藩財政建直しの激務に精励のあまり労咳を

病っていた。藩政の重責を負った彼は死を決して藩主に諫言した事があった。藩主に諫言などする勇士はめったに無い時代で、意見が聞き入れられない時は死ぬのが不文律であったから、併し蔵治の諫死は主家を憚って記録には病死と有って一切を秘密にされていた。併し世間はずんば棧敷ではなかった。或る朝高札場に「堅義理苦勞辞のはらきり意見、今時見上げた武士もある」何れ中間飛脚の口からでも漏れたものであろう。藩主も彼の死を惜み親族の差控は一切許るされている。又安政年間山崎に大火災が多発した。町人が家中の火消加勢の際中風向が変って町屋に飛火した。町人は町に火の手が揚るのを見てあわてて引上げかけたが、諸門は閉され火事場盗難を防ぐ為いちいち身体検査をされねば出してもらえない始末、皆は口口にののしり、家中の火事には二度と加勢はせぬぞと言いつつ。其後町は戒厳令が敷かれ取締りはいつ層厳しくなった。或朝熊鷹門の扉に落首の貼紙があった。佐藤要人が朝の馬責めの折それを見つけ持ち返って藩庁で披露した。「樽井馬場横井出て荻田で受けて、熱田！秋田なつ！と多賀ゆうて富和富和、これじゃ臭くてたまらない」これは取締の厳しい当時の役頭達の名が連ねてあったのである。樽井九右エ門（側用人祐筆頭）馬場勘左エ門（仕置家老）横井津右エ門（大目付）荻田小隼人（用人）熱田弥門（郡奉行代官）秋田貢（

町奉行）多賀宗太（町奉行与力）富和又右エ門（横目見廻頭）、又馬場勘左エ門の倅れ多門之助は元氣者で、喧嘩と聞けば急ぐに出て来る人で「本田つつけば馬場が出る」と人々は評した。

雨乞ひの靈宝『鮎答』

（ハイサラバサラ）

下 村 憲 一

昭和十四年の暮、私が中国戦線より帰還して間も無くのことでした。千本屋の宮総代の方が来られ「竹田屋さん、お宅に貴船さんの御神体が来とられませんか」と云われるので、亡父も私も何のことやらさっぱりわからずよくよく尋ねてみると、貴船神社（雨祈神社）の御神体が何日頃からか無くなってゐるのが最近になって判明し町の古い家を探ねてゐるのですとのことになり「どんな物ですか」と

純喫茶

エンゼル

山崎町山田・☎②0909

毎日の健康に
玄米入食パンを!!

松原商店

中央通り・☎②0077

云ふと「ヘイサラバサラ」と云ふ丸い石の様なものですとのことに、それなれば私が子供の頃から何かわからず玩具にしてゐた丁度ソフトボールの球そっくりの丸い球があるので出して来てみますと「多分これでしょう」と云われるので早速お返ししました。亡父も何日頃から我が家にあつたのか全く知らぬこのことにて多分明治の初年頃、誰かが持って来て品物とでも交換したのではないでしょうか。如何に知らぬこととは云え百年近くの間、御神体を預かつてゐてもよくも罰が当らなかつたものだと思ひました。

貴船神社は別名雨祈神社と云ひ延喜式内の穴栗郡内で七社の古い神社の一つに数えられ雨乞ひの神様として有名なお宮です。古文書によりますと「酢答」は走獣及牛馬の肝膽にあり、上は肉の囊にて包まれ白色、石に似て石に非ず、骨に似て骨に非ず、大なるは雛子の如し。牛にあるを黄と云ひ、馬にあるを墨と云ひ、鹿にあるを王と云ひ、狗にあるを狗宝と云ふ。酢答を浄水に浸し呪語を称ふれば直ちに雨降る、また産婦これを手中に握れば安産す、この外いろいろの疾病に靈効ありと云われてゐるから随分重宝なものである。猶、本町の旧家、粟屋の家宝として昔から代々保存されてゐるのは私の家にあつたのより一廻り大きく茶褐色のもので実に見事なものです。

郷土研究に若さを!!

安井清介

私は学校に勤めていた関係で修学旅行では京都東西本願寺、清水寺、平安神宮、三十三間堂、金閣寺、二条城などは再三行っておりますし、以前には洛東の知恩院、智積院、銀閣寺、南禅寺、永歛堂、金福寺、詩仙堂、若王子神社と洛北の鞍馬寺、三千院、寂光院、洛西では龍安寺、仁和寺、天龍寺、西芳寺と京都駅南の東寺にも行っているので、先年二日間をかけてまた京都を訪ね嵯峨野の野宮神社、落柿舎、小倉山二尊院、念仏寺、祇王寺常寂光寺をまわり嵐山高尾パークウェイを行って保津峡展望台から保津川の美しい流れを眺め高尾山神護寺、高山寺、清涼寺、大覚寺、妙心寺、等持院、広隆寺へ参拝し有名な弥勒菩薩像を拝観した頃には夕方になり、翌日には大徳寺、芳春院、大仙院から洛南の醍醐寺、随心院、勧修寺、

和洋酒食料品販売

八百福商店

山崎町山田・☎②0413

和洋酒食料品 卸問屋

三輪又商店

TEL ②1173

株式会社 安井書店

宍粟郡山崎町山崎90
☎ 山崎②0700(代)

東福寺、泉涌寺を拝観しましたが桜の頃ならもつとよかったと思いました。あまり一度に沢山拝観したので家内はどこがどこやらわからなかったと言っていました。次回からはあまり多くを拝観せず二、三ヶ所にしぼって行きたいと反省しております。

私はわれわれの祖先が残した日本人としての重要な文化財を尋ねるのが好きでよく旅行して神社仏閣とか城郭を見に行きます。そこには日本人の心が残されているからです。ところでそのように旅行して感じることは、どこへ行っても年寄りよりも若い人達が非常に多いということです。龍安寺へ行っても銀閣寺へ行っても縁側に腰かけて若い人達がじっと石庭を眺めていますし、どこの寺院へ行っても熱心に寺内を拝観しています。それらの若い人達もやはり日本人の心を求めているのだろうと考えます。

郷土研究会といえは年輩の人達の集まりのように思われていますし実際年寄りの人達が多いのですが、若い人達も郷土を愛し、郷土の発展を期する気持にはかわりありません。山崎町、宍粟郡、兵庫県の歴史を知り広くは日本全体の国の成り立ちや歴史を知ること

よって私達の祖先の足跡を尋ね日本人の心をつかもうとするのです。

そこで私はこの郷土研究会にも若い人達の研究グループを作り先輩の指導と協調によってより一層の郷土研究会の発展を期したいと思うのです。古い歴史を研究するだけでなく将来の山崎町なり宍粟郡の歴史的存在についても深く考え研究し合う郷土研究会にしたいものと念願します。

明治の白洲 — 山崎 —

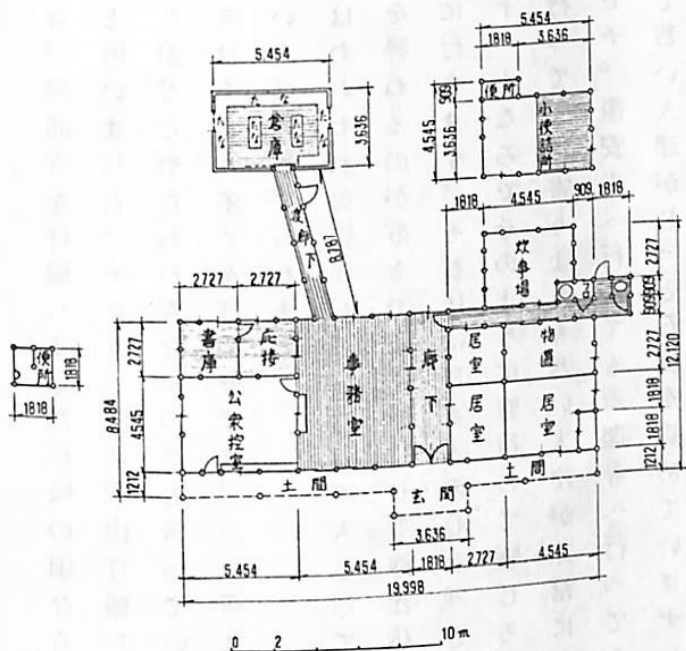
織 金 義 雄

旧山崎城内に、歴史の息吹きを秘めながら、ひっそりと佇む民族資料館。これは昭和四十九年、神戸方法務局山崎出張所の庁舎改築にともない、山崎町において、第一図に示す旧庁舎を、移築復原された姿である。

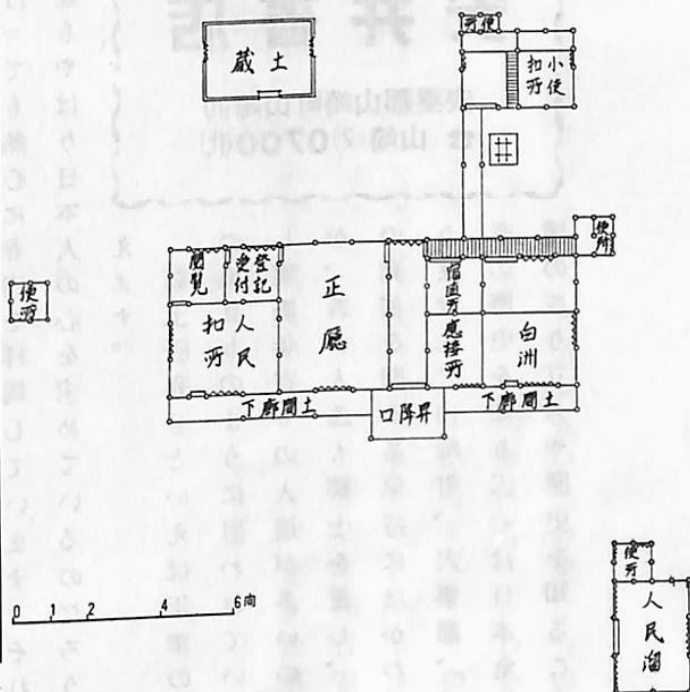
この庁舎は、近代不動産登記制度の整備確立のための「旧不動産登記法」(明治十九年法律第一号)の施行により、明治二十年「山崎登記所」が郡役所内に創立されたが、翌二十一年「龍野治安裁判所山崎出張所」に改称されると共に、宍粟郡民有志の献納により、同二十二年現在地の門前字東垣内に新築されたものである。

法務局は、山崎登記所として開設以来、名称の変遷は

第 II 図



第 I 図



幾度かあり、新憲法施行まで裁判所の一部門であったので、治安裁判所または区裁判所の裁判所名が冠せられていたことがあるが、通称「登記所」の名のとおり、一貫して登記事務を扱っているのである。

ただ例外として、明治二十二年の「出張裁判開廷場所管轄及期日表ニ関スル司法省告示」により、同年十一月一日から、十一月・二月・五月の各一ヶ月間、九月・十月の三十日間、山崎で出張裁判をする際の、場所として設けられたのが、第一図中にある白洲一法廷である。民族資料館の右入口から入った所が、白洲一当事者、弁護士、傍聴人席、その奥一段高い所が審廷一判事、検事、書記席である。巾二間半、奥行三間半のミニサイズであるが、前田一級建築設計事務所長、堂場棟梁ら関係者のご努力により、ありし日の姿そのままに精確に復原されている。この法廷も、翌二十三年、「神戸始審裁判所管内治安裁判所出張所裁判ノ儀当分ノ間開廷セス」の司法省告示により、同年十月一日以降開廷されることなく、わずか一年足らずで、その幕を閉じることとなった。その後明治三十六年、司法省訓令により、庁舎内に書記（所長）が居

補風閣式場指定店
農協会館
婚礼出張
堀口写真館
山崎中央商店街・☎0934

住することとなったため、第二図のように白洲の間を区分して、南側を疊敷九疊と押入五合（半坪か）の座敷、北側を板間物入室三坪七合五勺とし、また応接所も疊敷に変更され、さらに宿直所も加えて、民族資料館に移築されるまでの約七十二年間、所長官舎としてご奉公を全うした。

散策の途次立ち寄られ、往時を偲んでいただくのも、趣があるものと思われる。

なお出張裁判取扱期間の四ヶ月間に、果して裁判が行われたのか、扱ったものなら件数は……。残念ながら現在は未調査のため不明である。

この小文は、法務局が現在地に初代の庁舎を構えてから、本年度九十年になるのを機会としてまとめたもので、尚今後一層の調査研究が期待される。



山崎昭和年譜

堀 口 春 夫

昭和二十年 疎開者で山崎の人口増える。都会地は空襲

しきり戦火拡がる。八月ポツダム宣言受諾、八月十五日終戦のみことり放送さる。食料の買出開屋往行す。

昭和二十一年

山崎青嶺句会生れる。山崎忠魂碑除かる。林檎の唄流行す。外地引上復員兵続々帰へる。農地改革公布さる。

昭和二十二年

戦没者遺霊白鳩宮本多神社に合祭す。新制中学校発足す。郡内青年大会復活す。村上彰治氏町長となる。旧藩主本多邸敷地中学校に提供さる。七月郷土研究会再発足す。志佐波第一号発行す。

昭和二十三年

プロ野球の選手山崎に来る。神姫自動車乗場焼く。教育委員会法公布、極東軍事裁判開廷、A級戦犯絞首刑さる。映画館大繁盛。

昭和二十四年

二月山崎町公会堂焼ける。三月山崎の劇場旭座新富座町営となる。披露歌舞伎中村福助、市川九団次、実川延二郎来る。七月山崎新聞復刊される。郡是製糸工場存発の岐路に立つ。俳句雑誌青嶺発刊す。

山崎小学校町のおぢさん試みる。山崎町の玄関口清水口より宍粟橋への道路幅員拡張工事始る。

昭和二十五年

一月宍粟商工会議所創立総会開く。宍粟貨

物自動車山陽運送株式会社と改称す。
龍野税務署徴税の嵐強く差押品公売す。

篠陽塾山崎高等学校と合併新制高等学校に昇格す。配電会社停電多く非難の声高し、最上山に再び時の鐘復活日に三度鐘声響く。六月朝鮮動乱により闇屋往行す。山の緑化運動造林五ヶ年計画推進さる。山崎中央商店街夏の風物詩一六夜店始る。十一月山崎町制六十周年記念祭と山崎中学校新築落成に町賑あう手踊仮装行列町を行く。

昭和二十六年

町営劇場早くも行悩み、七月山映館出来る。新富座と映画の競争時代始る。山崎東和通のスズラン燈復活、夏の夜空を飾る十二ン波の納涼花火大会と商店大売出開催。山崎町自治体警察廃止か存置か？ 住民投票の結果廃止十月一日国家警察兵庫県山崎地区警察署と改称総員五十四名、神姫自動車運賃改正姫路山崎九〇円。自転車盗捧往行す。十一月横綱千代の山、栃錦一行大相撲山崎に来る。十二月宍粟郡物産産業振興共進会開催、第一会場仮装行列手踊等有、町は停電しきり電気代不払ひの声高し、遺族補償を巡って旭座で遺族蹶起大会開く。引原ダム

昭和二十七年

実行決る。生谷温泉復活の声。

山崎高校移転問題起る。一月旭座にてNHKのど自慢コンクール開かる。塵埃焼却場門前下河原へ移転地きまる。山崎町内にパチンコ店急増す。チンチャラ景氣到来す。本町筋商店連盟結成される。松竹大歌舞伎片岡仁左エ門旭座に来る襲名披露。岡山移動動物園山崎鹿沢博愛病院西へ来る。宍粟地方事務所十周年記念挙行、宍粟観光協会生る。七月山高加生に移転決定、八月十二波納涼花火大会昨年より大仕掛け人出八万年中行事となる。本多記念館中央公民館として開館、十月衆議員選挙元代議士小畑虎之助氏当選、町村合併の話高まる。山崎町文化団体新潮会発足す。

昭和二十八年

二千四百五十柱の宍粟郡戦没者合同慰霊祭光泉寺にて行う。四月衆院開散再選挙、八月神原郡長頌徳碑団体事務所前に建つ、戸倉トンネル貫通す。山崎上之町に戦没軍人

漢方薬と食事指導

ドラッグストア
ひがしや
有限会社

山崎町中央通り・☎②0109

鮮魚・料理仕出し
中村鮮魚店

山崎町中央通商店街
 電話 ② 2468 (代)

カット&パーマ
 婚礼着付
水川美容院

山崎町役場前・☎②0590

昭和二十九年

墓地出来る。宍粟商工会議所存廃の岐路に立つ併し法定数を獲得して存置決定、山崎中央魚菜市场福原町に開設、山崎職業補導所就職率一〇〇%、鉄道建設期成同盟会開く。

宍粟信用金庫本町に新築落成す。今年の冬は暖冬異変、宍粟郡縦貫急行電鉄設立同盟推進、三月宍粟専門店会結成、山崎専門店会も富士野町に開所式、山高大学進学率高まる。宍粟商工会議所廃止決定商工会として再発足、山崎上水道拡張工事完成す。六月一日山崎町菅野と合併す、町村合併問題議論百出して低調、八月菅野山崎合併両町調印す。

昭和三十年

四月代議士小畑虎之助氏逝去、五月山崎商工会大運動会開催、応援合戦盛ん、南部町村合併有望、三河分町問題難航す。六月生谷温泉山楽荘落成す。七月山崎名物中央商店街一六夜店土曜夜店として発足、七月町村合併南部七ヶ村大合同成立大山崎発足す。八月祝合併花火大会盛大人出推定十万人。町会議員選挙炎熱下に展開す。十月山崎合併祝賀大行事賑あふ。仮装行裂手踊流し盛会、三河地区分町問題猶くすぶる。

史跡部だより

本年度には先号にて報告いたしましたように、①山城
 城中堀の跡、②比地金谷条里制の遺構、③聖山城跡の三
 箇所、高さ一メートルの石の標識を建てました。

次に昭和五十四年度には、去る五月九日の役員会後の
 史跡部会で、次の三箇所を標識を建てる事になりました。

- ① 山崎城 外堀の跡
- ② 宇原古墳 (第一号)
- ③ 長水城 五十波構の跡

就きましては右に関する資料やご意見をお聞かせいた

だきたく、特に関係の方々の絶大なご協力をお願い申し上げます。

近況だより

去る十月三日、財団法人本多藩記念館並に教育委員会共催で文化講演会が開かれました。講師は山崎町史の監修者岡山大学教授石田善人先生で、先生は日本でも権威ある歴史学者であります。講演内容は山崎町の出来た頃、つまり近世初頭の播州諸藩の情況、並に池田家の系歴、

本多家の系歴等と城下町の講成などについてくわしくお話しされ、聴衆者は高齢者教室、郷土研究会員、本多記念会など多数盛会であった。後で又本多記念館で座談会を催し、吾が郷土の歴史に触れ有意義な一日を過しました。



山陽興産株式会社

山崎事務所

山崎町鹿沢33番地
 ☎②0466・②0883・②5889